子育て支援センター

育児日誌　その２０７

「子どもの本心」

先日、小学校４年生の娘を本気で叱りました。理由は「ウソをついた」からです。

娘は、いつもリビングで宿題をします。その日はよく「分からへん」と言いながら考え込んでいました。洗い物をしながら様子を見ていると、なんと答えを写し始めました。一瞬、目を疑いましたが、その時は何も言いませんでした。

すぐに「できた～！さぁテレビ見よ～」とスイッチを付けました。私は、すかさず「ちゃんと出来たの？分からへん所は分かったの？」と聞くと、「うん。すぐに分かった！」と答えたので、怒りスイッチがオンになりました。

最初は、普通の声のトーンで、「見せてみて」と言うとノートを出したので確認すると、計算した跡がなく答えだけ書いてありました。

「これは、どうやって計算したん？」と聞くと、しどろもどろになり、目が泳いでいます。さらに追い討ちをかけて「自分で考えてやった？」と聞くと、「うん。ちゃんと考えた」と答えるものの表情がおかしい！

「お母さん、洗い物しながらずっとみてた！」と言っても「自分でやった」の一点張り。怒りがピークになり、「ウソつきなさんなっ！！」と大きな声を出すと、娘は「ちょっと答え、見っちゃった」とやっと言いました。怒りがおさまらないまま「どの問題を見たの？！」と聞くと、半分以上でした。

「そんなん自分でやったって言わないの！！なんでウソつくの！！」と怒りはマックスです。「だって考えても考えても分からへんもん」と答えるので「じゃあ、なんでお母さんに聞かないの！」と言うと、泣きながら「いっつも忙しそうやもん。だから聞かれへん」と言いました。ハッとするのと同時に怒りもスッと消えました。

いつも時間に追われ、娘の状態、気持ちに気付けなくなっている自分の姿が浮かびました。

ウソをついたこと、ズルイ事をした事は叱りましたが、分からない所を聞けない雰囲気にしていた事は謝りました。

泣き続ける娘を抱きしめていると、私も涙がでていました。

お茶を飲み、落ちついたところで、１から宿題のやり直しをしました。

「教えてくれてありがとう」と言ってくれた娘を、私は誇りに思いました。

やっぱり、子どもが「親」を育ててくれるんだとまた実感しました。